



発行

財団法人 東京都生涯学習文化財団

東京都埋蔵文化財センター

〒206-0033

多摩市落合1-14-2

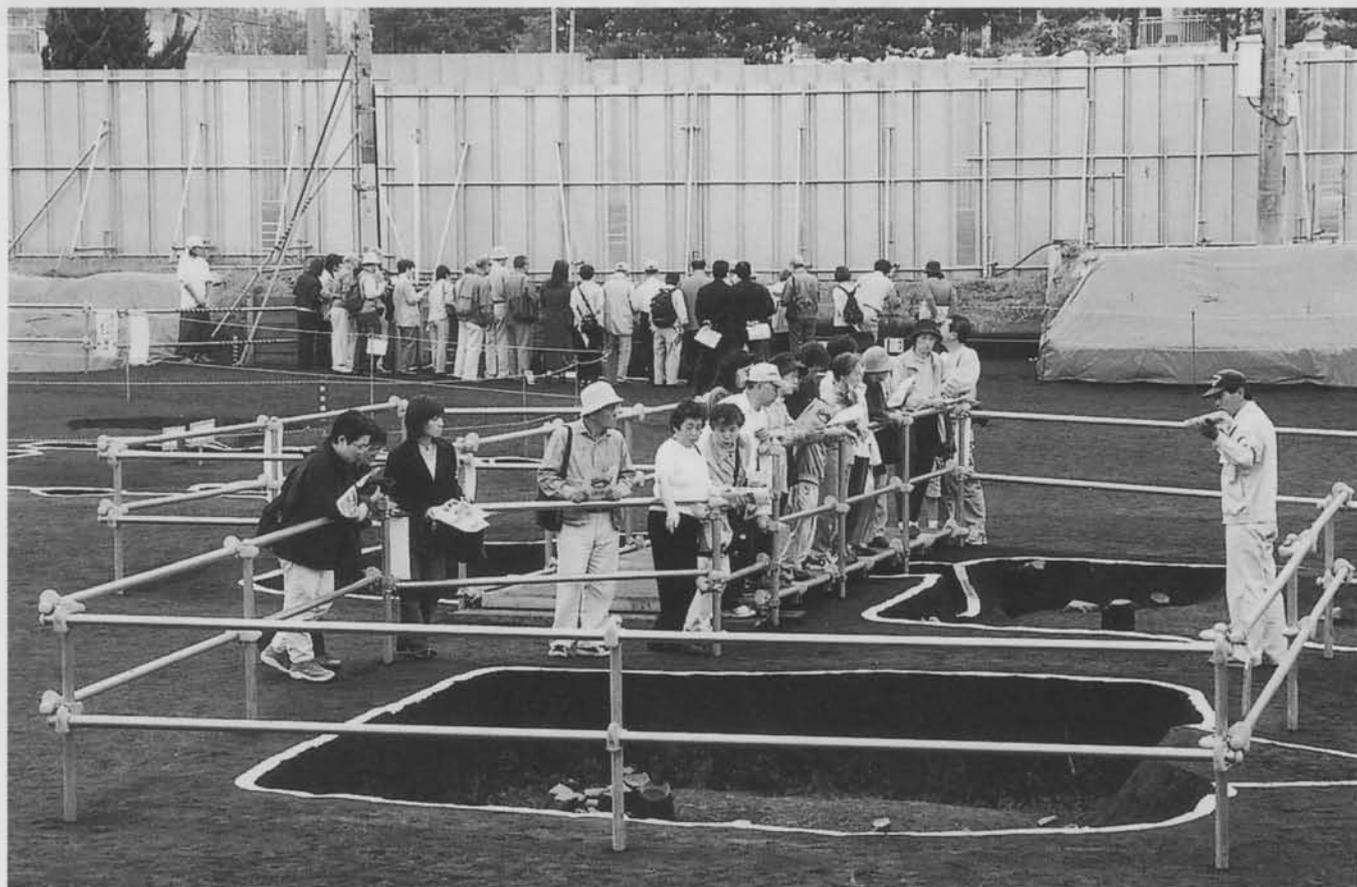
☎ 042-373-5296

# たまのよこやま

東京都埋蔵文化財センター報 No. 56

平成14年11月20日

<http://www.tef.or.jp/maibun/>



船田遺跡現地説明会風景 平成14年10月19日(土)

## 子ども達に夢を

常務理事

横川孝二

昨年(十一月十九日未明)の「しし座流星群」天文ショーを、我が家ではベランダに炬燵を出して楽しみました。天文知識を持ち合わせてはいませんが、東の夜空に普段は見ることが出来ない程降り注ぐ流れ星の数に感動し、沢山の願いを託しました。

一年後の現在、東京都埋蔵文化財センターに勤めて三ヶ月が経ちます。センターは埋蔵文化財の調査・研究の他、文化財への理解を深めるためのいろいろな広報活動をしています。講演会、現地説明会、発掘現場の視察、土器作り教室を通じて、職員の日頃からの工夫や努力に心強い思いがします。大地に眠っている文化財に思いを馳せる時には空想の世界が次々と膨らみ、今度は大空ならぬ地中に感動しています。

特に、センター敷地内の遺跡庭園「縄文の村」と展示ホールに多くの子ども達が見学に来て欲しいという思いが強くなってきました。遺跡保存と活用を兼ねて三棟の住居が復原されています。その周辺には縄文時代に生えていたと思われる胡桃、栗、栃等の実のなる樹木や草が茂っています。この住居で縄文人は四季をどのように過ごし、何を、どのようにして食べたのか、子ども達は感動や疑問をきつと持つことでしょうか。これには隣接の展示ホールが答えを出します。

歴史に触れる格好の体験施設も知名度が低く教育利用は多摩地域に負っているのが実情です。しかし区部からのアクセスも良く引率者の負担も少ないので都内全域の学校、子供会のリーダーへPRしていきたいと考えています。：何よりも本物による感動を次世代に伝えたいという思いをこめて：

遺跡だより ⑥4



西台後藤田遺跡第3地点

板橋区は、東京都23区の中では北端部に位置する地域にあります。今回調査した西台後藤田遺跡は西台一丁目408番地にあります。調査は都営西No.58となっています。調査は都営西台住宅の立て替え工事に伴うもので、約千五百㎡を調査しましたが、当センターが調査したのは遺跡の一部であるため、報告書は「西台後藤田遺跡第3地点」として報告します。

このあたりは台地の周縁にあたるため板橋区の中でも遺跡の密集する地域となっています。発掘調査は5月から開始され8月末には終了しましたが、引き続き発掘資料の整理作業を行い、現地事務所は11月半ばで閉鎖しました。

発掘調査では、縄文時代の竪穴住居2軒、弥生時代の竪穴住居7軒を

確認した他、深い耕作で壊されて柱の穴だけが残る時代が不明な竪穴住居が数軒確認されています。また、地面の赤く焼けた跡が3箇所発見されています。

調査ではこれらの遺構とともに、縄文時代や弥生時代の土器や石器も発見されています。縄文時代のものとしては土器片が約四千点あり、その多くが諸磯式と呼ばれる前期後半の土器で、神奈川県三浦市の諸磯遺跡から出土した土器にちなんで命名されています。

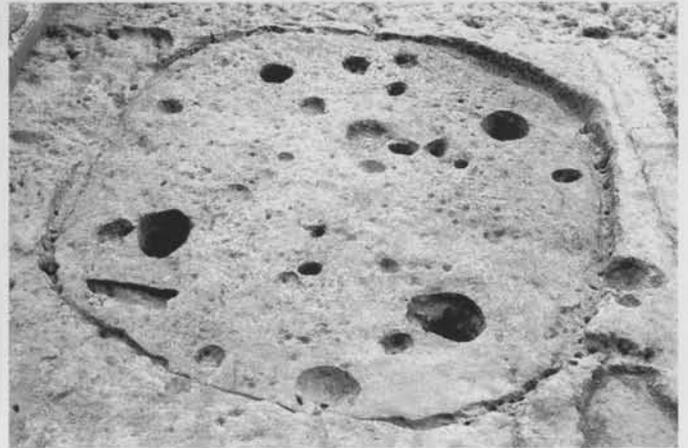
弥生時代のものとしては、後期の久ヶ原式と呼ばれる時期の住居などから出土している土器です。この久ヶ原式土器は東京都大田区久ヶ原遺跡から出土した土器にちなんで命名されたものですが、残念なことに、この遺跡では住居跡に伴って出土した資料が少なく、住居の時期を特定する上では少々不安材料となっています。

住居跡は今回の調査区の全体に広がるような状態で発見されていますので、当時の集落はさらにその外側にも広がりをもつ大規模なものと考えられます。

そのため今回の調査ではその一部が姿を現したものと考えられます。  
(小松眞名副主任調査研究員)



1号住居跡 作業風景



1号住居跡



6号住居跡 縄文時代前期の土器



5・6号住居跡

外神田四丁目遺跡 (その3)

前号で、江戸時代の埋め立て整地層中より縄文貝塚出現と報じました。江戸時代の縄文貝塚?多くの皆様も不思議に思われたでしょう。発掘している調査員もなぜ秋葉原の低地に貝塚があるのか???でした。貝塚はハマグリを主体としアサリ・アカ

文化財講座 <46>  
大江戸掘りもの帖 ~二十三~

ニシ・カキなどが含まれ、厚さは1m以上もありました。貝層に含まれている縄文土器は後期の堀之内式と加曾利B式土器を主体とし、曾谷式、安行1~2式まであり、量は少ないながら縄文早期~晩期中葉の安行3C式まで続いています。石器では磨製石斧・打製石斧・石棒(石剣)・石皿・磨石、土製品では土偶・土版・耳栓・手燭形土製品・土製円盤、骨角製品では加工の認められる装飾品?、内面に赤色顔料が付着したハマグリなども出土しました。獣骨や魚骨も多数含まれています。

その後、出土品をよく調べてみましたら、縄文土器の他に江戸時代の焼物や下駄・箸も混じっていることがわかりました。現在この貝層は、

台地の上にあった縄文時代の大規模貝塚が江戸時代に埋立用の土取りにともない破壊され、低地の秋葉原まで運ばれ、埋め立てに使用されたと考えています。今後は、貝塚の貝の種類や土器の時期幅などを総合的に検討し、何処にあった貝塚が壊されたのか、検討していく予定です。

現在、都心の貝塚は70箇所前後ありますが、貝塚の調査は大変珍しくなっています。今回は江戸遺跡を掘りながら、タナボタで縄文貝塚が調査できた大変貴重な例となりました。

(及川良彦主任調査研究員)



保存科学室(こぼれ話(二〇))

刃状痕土器の痕跡考古学(上)

展示ホールにある弥生時代の土器の胴部に小さな窪みが空いていて、それは稲穂の跡であることがわかりました。刃状痕土器を作る時にまぎれ込み、土器を焼いたときに燃えてなくなり、その跡だけが残ったのです。この刃状痕は、どれくらいの大きさで、どのような形をしていたのでしょうか?その情報を得るため、ここではレプリカ法と呼ばれる方法で観察してみました。この方法は、印象材を使って様々な形で残された痕跡から元の形に復元して、観察や分析を行う研究方法です。

刃の大きさは、通常1cm未満です。したがって、レプリカを拡大して観察しないと詳細な情報は得られません。そのために、電子顕微鏡という

極めて精度の高い顕微鏡を使用しています。図1は、土器片に残されている刃の痕跡の写真、図2は実体顕微鏡写真、図3は刃のレプリカを電子顕微鏡で撮影した写真です。レプリカは実物と同じ形をしていますから、図3は実際に土器に入り込んだ刃をそのまま見ているのと全く変わりがありません。電子顕微鏡を使った観察では、位置や傾きを動かし、倍率を変えることによって様々な情報を引き出すことができます。(丑野 毅 東京大学大学院総合文化研究科)

今回と次回は、丑野氏の協力によりNo.692遺跡から出土した刃状痕をもつ土器について、レプリカ法で得られる情報を紹介します。



図1 刃状痕をもつ土器



図2 実体顕微鏡写真



図3 電子顕微鏡によるレプリカの写真

### 文化財講演会

第一回は、7月13日(土)

有限会社考古石材研究所柴田徹氏による「石材からみた旧石器時代と縄文時代」の講演と、「白馬連峰の自然」の映画を上映しました。参加者は、125名でした。

第二回は、9月11日(水)

当センター松井和浩氏による「縄文時代中期の集落―No.939遺跡からみて―」の講演と、「森と縄文人」を上映しました。参加者は、142名でした。

第三回は、10

月12日(土)

青梅市郷土博物館 館久保田正寿氏による「実験考古学の楽しみ―覆い焼などの復元からみて―」の講演と、「土と炎」を上映しました。参加者は、91名でした。



### 縄文土器作り教室

8月9日(木)・10日(金) 土器製作

9月14日(土) 野焼き

今回も親子ふれあいキャンペーンを兼ねており、多数の応募の中から抽選で選ばれた親子15組、一般19名

の参加者で行われました。

難しい作業にもかかわらず、全員

見事完成させることができました。

9月8日(土) 予定の野焼きが雨天のため延期になるなど、天候に翻弄されましたが、無事終了することができました。



### 安全の日

7月1日(月)

全国安全週間、第19回東京都埋蔵文化財センター安全の日に、安全標語の入選発表と講演を行いました。標語第一席には樋口照子氏の次の作品が選ばれました。

してますか

小さな確認 大きな安心

講演は、東京消防庁多摩消防署多摩センター出張所長高橋昇氏、一部救急隊長柳澤英夫氏による「誰でもできる救急処理・救命法」でした。

親子ふれあいキャンペーン

火おこし体験・泥めんこ

作り・「縄文の村」探索

10月26日(土)

午前中の雨の影響により今回の火おこしは流れの広場で行いました。秋ならではのクルミ、シイなど木の実の採集や味はいかがでしたか? 19組、48名の参加がありました。

### 狭山遺跡現地説明会

9月14日(土)

地元瑞穂町の方々を対象にした現地説明会では、旧石器・縄文・古墳時代の遺構や遺物の見学をしていただきました。200名の参加がありました。



### 船田遺跡現地説明会

10月19日(土)

東京文化財ウィークの企画事業として、平安時代の住居跡や掘立柱建物跡などを見学していただきました。

320名の参加がありました。(巻頭写真参照)

### 自衛消防訓練

10月18日(金)

東京消防庁多摩消防署の協力により消防訓練を行いました。今回は救助袋による脱出訓練も実施し、貴重な体験となりました。



### 分室の開設

次の分室が開設され、現在、合計20分室で発掘調査・整理作業を行っております。

信濃町分室 比田井民子係長

鶴間正昭

清水ヶ丘分室 可児通宏係長

岩橋陽一

R100

古紙100%配合の再生紙を使用しています。